

平成24年度
事業報告書

公益財団法人エイズ予防財団

事業部門

I 寄付金等による事業

1 啓発普及事業（公1・普及啓発事業）

(1) コミュニティアクション2012

「世界エイズデー」キャンペーンテーマと統一したコンセプトの下で、厚生労働省や地方自治体のキャンペーンと協調しつつ、同時並行的に進めるコミュニティ主導のキャンペーンを行った。具体的には、「“AIDS”GOES ON... ～エイズは続いている～」をテーマに展開し、9月1日に公式サイト（<http://www.ca-aids.jp/>）を開設するとともに、ポストカードを作成し、配布した。

実施期間：平成24年9月1日（土）～12月31日（月）

実施内容：共通課題による全国的なエイズイベント開催の促進及び全国のエイズイベントの情報集約と広報支援

(2) アリコ啓発普及事業

メットライフアリコ生命保険及び同全国代理店会連合会からの協力を得て、コンドームケースを作成し、HIV予防啓発冊子とともに全国に配布した。

制作物：デニムコンドームケース 10,000個

冊子「安心と早期発見のための HIV 検査」80,000部

冊子「仲間と考えよう！エイズ（ティーンエイジャー編）」50,000部

(3) Act Against AIDS 啓発資材

A A A 運営事務局からの寄付金を基に、「正しい知識を身につけること」が HIV 感染の予防になり、感染者・患者への偏見、差別も生まないという呼びかけを基本として、エイズ知識啓発パンフレット、パネル版、ポスター版を制作し、配布した。

(4) 抗HIV治療ガイドラインの作成

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業 HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究班の協力を得て、同班の作成した「抗HIV治療ガイドライン」を増刷し、配布した（A4版、縮刷版各1,000部）。

(5) 地域イベント等における普及啓発と募金活動

地域で行われているイベント等にブースを設置し、パンフレット等の配布を行うとともに、募金活動を実施した。

① 地域イベント

「水戸神輿祭り」(茨城県水戸市、8月) / 「24時間テレビ」(パラダイステレビ、8月) / 「13thアール・エスポワールチャリティ美術展」(世田谷美術館、12月) / 「浜松オートレース」(静岡県浜松市、11~12月) / 「ハートアートコミュニケーション・エイズチャリティ美術展」(国立新美術館、1~2月) / 第19回プライベートフットボール全日本選手権大会」(大阪エキスポフラッシュフィールド、1月)

② ブース設置

ア AIDS文化フォーラム in 横浜にブース出展

会 期：平成24年8月3日(金)~5日(日)

場 所：かながわ県民センター(横浜市神奈川区)

イ 第26回日本エイズ学会学術集会・総会にブース出展

会 期：平成24年11月24日(土)~26日(月)

場 所：慶應義塾大学日吉キャンパス(横浜市港北区)

ウ ミュージカル『RENT』劇場でブース設置

実施日：平成24年12月1日(土)

場 所：日比谷シアタークリエ(東京都千代田区)

(6) 行政・研究者・NGOエイズ対策懇談会

平成24年1月に告示された「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針」の理念に基づく行政・研究者・NGOの相互連携を具体化することを目的とし、①HIV/エイズに取り組み続ける行政・研究者・NGOの現場における実績の共有、②行政・研究者・NGOの領域を越えた意見交換の取り組みにより、これらの者の間の信頼醸成と成果の蓄積を図り、エイズ対策の継続性の確保に貢献することを目指す懇談会を設置するため、設置準備委員会を開催した。

ア 第1回設置準備会

開催日：平成24年10月31日(水)

場 所：エイズ予防財団会議室

内 容：懇談会の準備(目的の明確化等)

イ 第2回設置準備会

開催日：平成24年11月26日(月)

場 所：慶應義塾大学日吉キャンパス(横浜市港北区)

内 容：日本エイズ学会の機会を活用し、2つのNGO 団体による地域における行政との連携事例の紹介と意見交換

ウ 第3回設置準備会

開催日：平成25年3月6日(水)

場 所：エイズ予防財団会議室

内 容：懇談会の準備（参加会員等）

（7）その他啓発普及事業

ア NBAプログラム「バスケットボール・ウィズアウト・ボーダーズ」での講義

実施日：平成24年6月14日（木）

場 所：味の素ナショナルトレーニングセンター（東京都北区）

内 容：HIV/エイズの基礎知識に関する講義とグループワーク

対 象：アジア太平洋地域から選出された18歳以下のトッププレイヤー

イ 「新エイズ予防指針と私たち」の編集

わが国のHIV/エイズ対策の現場で活躍する医療関係者や行政担当者、NGO・NPO関係者らにエイズ予防指針への認識を深めてもらうとともに、一般の人たちにもHIV/エイズの流行の現状とエイズ対策の課題を理解してもらうことを目指して編集に当たった。書籍は（有）連合出版から発行された。

（8）ACジャパン支援広告

平成24年度のACキャンペーンについては、制作過程における都合により、中止となった。

2 助成事業（公2・助成事業）

（1）エイズ予防財団助成事業

従来、日本エイズストップ基金の名称により、エイズに関するボランティア団体への支援（助成金の交付）事業を行っていたが、平成23年末をもって同基金の名称の使用を停止し、エイズ予防財団助成事業として再スタートした。

なお、この事業の公正中立な実施のために設置された助成事業選考委員会による審査・選考結果を踏まえて助成を行った。

委員：◎鎌倉光宏（慶應義塾大学）／見城美枝子（青森大学）／小坂善治郎（東京富士大学）／中村博（青山学院大学）／吉田智子（パブリックリレーションズプランナー）

① 平成24年度第1回助成事業選考委員会

日 時：平成24年6月12日（火）15時30分～17時30分

会 場：法曹会館（東京都千代田区）

内 容：平成24年度助成について、22団体からの申請案件に係る審査・選考結果報告がとりまとめられ、理事長への提出があった。これを受けて、次のとおり助成先・助成額を決定した（計12団体、4,975,000円）。

ア エイズ患者・HIV感染者等に対する社会的支援事業

1	HIV陽性者参加支援スカラシップ委員会	600,000円
2	NPO法人日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス	800,000円

イ エイズ患者・HIV感染者等に対する電話相談事業

3	NPO法人AIDSネットワーク横浜	300,000円
4	NPO法人レッドリボンさっぽろ	250,000円
5	せかんどかみんぐあうと	300,000円
6	NPO法人りょうちゃんず	200,000円

ウ エイズ予防に関する啓発普及事業

7	NPO法人えんばわめんと堺/ES	370,000円
8	神奈川県性・エイズ教育実践研究会	490,000円
9	NPO法人魅惑的倶楽部	500,000円
10	HaaTえひめ	500,000円
11	PLANET (HIVと共に生きる会)	245,000円
12	ライターズチーム熊本	420,000円

② 平成24年度第2回助成事業選考委員会

日 時：平成25年3月25日（月）13時30分～16時30分

会 場：結核予防会会議室

内 容：平成25年度助成について、24団体からの申請案件に係る審査・選考結果報告がとりまとめられ、理事長への提出があった。これを受けて、次のとおり助成先・助成額を決定した（計13団体、3,500,000円）。

ア エイズ患者・HIV感染者等に対する社会的支援事業

1	NPO法人「Rin かがしま」準備委員会	300,000円
2	NPO法人日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス	500,000円

イ エイズ患者・HIV感染者等に対する電話相談事業

3	NPO法人AIDSネットワーク横浜	200,000円
4	人権と共生を考えるエイズ・ワーカーズ・福岡	200,000円
5	せかんどかみんぐあうと	200,000円
6	NPO法人りょうちゃんず	200,000円

ウ エイズ予防に関する啓発普及事業

7	AIDS文化フォーラムin横浜組織委員会	500,000円
8	HaaTえひめ	500,000円
9	公益財団法人京都市ユースサービス協会	500,000円
10	特定非営利活動法人現代美術研究会	100,000円

11	みるく・る	100,000円
12	SUWA FRESH PEER	100,000円
13	PLANET (HIVとともに生きる会)	100,000円

(2) ポジティブ・アクション助成事業

ヴィーブヘルスケア株式会社からの寄付金を基に、社会的にインパクトのある取り組み、活動を行うボランティア団体を支援するポジティブ・アクション助成事業を実施することとし、平成25年度助成について公募を行った。

助成の対象となる事業は、①同性愛者等を対象にしたエイズに関する正しい知識の普及等を推進する事業、②中学生・高校生を中心とするティーンエイジャーを対象にした同種事業の二つである。

10団体からの申請案件に係る審査・選考は、前述の第2回助成事業選考委員会（3月25日）において行われ、その選考結果の提出を受けて、次のとおり助成先・助成額を決定した（計3団体、2,000,000円）。

ア 同性愛者等を対象にした事業

1	東北HIVコミュニケーションズ	500,000円
---	-----------------	----------

イ ティーンエイジャーを対象にした事業

2	NPO法人akta	1,000,000円
3	IFMSA-Japan SCORA (国際医学生連盟日本 性と生殖・AIDSに関する委員会)	500,000円

3 大阪HIV検査センター支援事業（公1・普及啓発事業）

ブリストル・マイヤーズ株式会社からの寄付金及び米国ブリストル・マイヤーズ・スクイブ基金からの助成金を受けて設置された、大阪検査相談・啓発・支援センター（愛称=chot CASTなんば）の事業を支援するため、以下の事業を行った。

(1) 大阪での街頭キャンペーン

ア 検査普及週間街頭キャンペーン

日 時：平成24年6月7日（木）17時30分～19時30分

場 所：chot CAST なんば周辺（大阪市浪速区）

内 容：行政・NGO と連携し、常設検査場周辺で実施

配布物：予防啓発グッズ・パンフレット 2,000 セット

イ 世界エイズデー街頭キャンペーン

日 時：平成24年11月28日（水）17時30分～19時30分

場 所、内 容、配布物：アと同じ

(2) エイズ啓発DVDの制作

chot CASTなんばなど、HIV検査・相談を実施する施設において、検査の待ち時間などに放映し、HIV感染症に関する啓発を進めるためのDVDを企画し制作にかかった。

作品名：「リアルに知るHIV・エイズ」

内 容：「基礎知識編」「検査&治療編」「サポート編」の3部構成

4 国際協力事業（公6・国際協力事業）

(1) ASAP（アジア太平洋エイズ学会）の団体会員

ASAPへの団体会員としての関わりを継続した。

(2) MACエイズ基金の受け入れ

UNAIDS/WHO及びベトナム政府が実施するTreatment 2.0パイロット事業について、米国の化粧品会社MACが運営するMAC AIDS Foundationが資金提供することとなった。UNAIDSからの依頼を受け、日本でのMAC社の売上からプロジェクトに充てられる資金の受渡を橋渡しした。

(3) 中国疾病予防管理センター（CDC）所長等訪問団来訪

国立感染症研究所の依頼を受け、中国疾病予防管理センター（CDC）所長等訪問団に対し、日本におけるHIV/エイズの状況及びエイズ予防財団の事業概要の説明を行った。

実施日：平成24年5月23日（水）

5 情報収集提供事業（公6・情報収集提供事業）

(1) 米国内のエイズ対策調査

第19回国際エイズ会議に合わせ、ニューヨーク市内のエイズ団体（4団体）の事務所訪問と活動視察を行った。

日 程：平成24年7月18日（水）～22日（日）

(2) 第19回国際エイズ会議

国連合同エイズ計画（UNAIDS）の依頼により、ワークショップにおいてわが国のHIV感染症／エイズの現状とその対策等に関する発表を行うとともに、グループワークを運営し、他国参加者との意見交換を行った。

日 程：平成24年7月22日（日）～28日（土）

(3) 国際ウイルス会議・抗ウイルス療法研究会支援事業

HIV 感染症やウイルス肝炎などに対する抗ウイルス治療の進歩に資するため、国際ウイルス会議・抗ウイルス療法研究会を共催し、製薬団体連合会からの協賛金を受け入れ

た。研究会では、基調講演、シンポジウム5件、学会賞受賞講演2件、口頭発表33件、ポスター発表100件などが行われた。

会 期：平成24年4月16日（月）～19日（木）

場 所：ロイトン札幌（札幌市中央区）

参加人数：国内31人、国外153人 合計184人

参加国数（主な国名）：34カ国（米国、英国、カナダ、韓国、スウェーデン、中国、インド、チェコ、ドイツ、フランス、ベルギー 等）

II エイズ予防対策事業（厚生労働省委託事業）

1 血液凝固異常症実態調査事業（公4・調査研究事業）

血液製剤を通じて HIV に感染した血友病患者を中心に血液凝固異常症の病態を把握し、治療の向上と生活の質の向上に寄与することを目的として、血液凝固異常症患者を治療している全国の医療機関で調査を実施した。1,331施設、1,508担当医等に調査票を送付し、749施設、856担当医等から4,020の症例について回答を得た。

調査結果報告書は、回答のなかった医療機関を含め、すべての担当医及び患者等に提供し、フィードバックすることにより患者の治療とQOLの向上を図った。

なお、調査の精度及び専門性を確保するため、医療関係者及び患者で構成する全国調査運営委員会を設置して実施した（2回開催）。

委員：大平勝美（社会福祉法人はばたき福祉事業団理事長）／白幡聡（産業医科大学名誉教授）／◎瀧正志（聖マリアンナ医科大学小児科教授）／立浪忍（聖マリアンナ医科大学教育文化部門医学統計学分野准教授）／仁科豊（仁科・深道法律事務所弁護士）／花井十伍（大阪HIV訴訟原告団代表）／三間屋純一（静岡県熱海健康福祉センター所長兼熱海保健所所長）

2 HIV感染者等保健福祉相談事業（公5・相談事業）

（1）エイズ中核拠点病院における相談事業

エイズ中核拠点病院に相談員を配置し、HIV感染者・エイズ患者等への心理的援助を行った。今年度から新たに本事業を開始した医療機関は4件、再開した機関1件、前年度限りで休止した機関1件であった。

配置医療機関（31機関）

岩手医科大学附属病院／大館市立総合病院／福島県立医科大学附属病院／獨協医科大学病院／群馬大学医学部附属病院／都立駒込病院／東京慈恵会医科大学附属病院／横浜市立大学附属病院／新潟大学医歯学総合病院／富山県立中央病院／福井大学医学部附属病院／岐阜大学医学部附属病院／名古屋医療センター／三重大

学医学部附属病院／滋賀医科大学医学部附属病院／京都大学医学部附属病院／大阪市立総合医療センター／市立堺病院／兵庫医科大学病院／奈良県立医科大学附属病院／島根大学医学部附属病院／山口大学医学部附属病院／香川大学医学部附属病院／高知大学医学部附属病院／産業医科大学病院／佐賀大学医学部附属病院／長崎大学病院／熊本大学医学部附属病院／県立宮崎病院／鹿児島大学病院／琉球大学医学部附属病院

(2) 相談支援事業

相談の精度確保及び均てん化を図るため、全国の相談員を一堂に招集し、国立国際医療研究センター病院エイズ治療・研究開発センター（以下、「ACC」）及び地方ブロック拠点病院の医師、カウンセラー等による指導、講義・事例検討等を行うとともに、情報・意見交換を行った。

実施日：平成 25 年 2 月 16 日（土）～17 日（日）

場 所：飯田橋レインボービル（東京都新宿区）

参加者：26 人（うち本事業未実施機関からの参加者 3 名）

(3) HIV 検査事業

HIV 検査受検者数の拡大を図るため、休日や夜間など HIV 検査受検査希望者の利便性に配慮した検査・相談を実施した。

ア 厚生労働省主催イベントに合わせた HIV 検査の実施

厚生労働省が主催したレッドリボンライブ2012に合わせ、臨時 HIV 検査を実施した。

実施日：平成 24 年 11 月 25 日（日）

場 所：シブヤ・ネクサス（東京都渋谷区）

受検者：61 人

イ 定期 HIV 検査の実施

重点都道府県等として選定されている大阪市において、毎日曜日に HIV 検査を実施した。実施回数 46 回、受検者数 242 人

ウ 臨時 HIV 検査の実施

重点都道府県等の協力を得て、HIV 検査普及週間及び世界エイズデーと時機を合わせた臨時の HIV 検査を実施した。

埼玉県（6 回）272 人、港区（1 回）48 人、中野区（3 回）212 人、千代田区（1 回）17 人、岐阜県（1 回）23 人、大阪市（2 回）85 人、広島市（2 回）98 人、千葉県（1 回）122 人

エ 「HIV 検査・相談窓口」における情報サービスの実施

全国の保健所等における検査日時や場所、予約の方法、電話相談等についての情

報を収集し、エイズ予防情報ネット（以下、「API-Net」）を通じて提供した。

（４）専門相談員による電話相談

当財団内に電話相談室を設置し、専門相談員による電話相談を実施した（フリーダイヤルで、月曜から金曜までの毎日、午前 10 時から午後 1 時、午後 2 時から 5 時まで）。

平成 24 年度電話相談受付件数：7,486 件

3 HIV 診療医師情報網支援事業（公 1・普及啓発事業）

HIV 感染症の臨床医等による交流等の連携を図るため各ブロックに設置された情報網に対し、必要な支援を行った。各情報網では、症例検討会や講演会の開催、ネットワーク紙の発行等のほか、今後の取り組みを共有するための会議を開催した。

支援先情報網（7カ所）

東北 HIV 診療支援ネット／HIV 感染症の医療体制構築を目指すネットワーク（新潟）／東海ブロックエイズ診療拠点病院連絡協議会／北陸 HIV 臨床談話会／関西 HIV 臨床カンファレンス／岡山 HIV 診療ネットワーク／九州ブロックエイズ診療ネットワーク会議

4 エイズ治療拠点病院医療従事者海外実地研修事業（公 2・助成事業）

エイズ治療拠点病院における診療能力の向上及び HIV 感染症／エイズ診療のリーダー的役割を担う人材の育成を図るため、エイズ診療の経験豊富な海外医療機関に医療従事者を派遣し、臨床実地研修を実施した。

ア サンフランシスコ（医師等コース）

研修先：カリフォルニア州立大学サンフランシスコ校

日程：10月6日（土）～21日（日）

受講者：4人（医師（初・中級者））

イ サンフランシスコ（看護師等コース）

研修先：カリフォルニア州立大学サンフランシスコ校

日程：10月13日（土）～10月28日（日）

受講者：4人（看護師3人、助産師1人）

5 エイズ国際会議研究者等派遣事業（公 2・助成事業）

わが国のエイズ対策の広範な充実、活性化を図ることを目的として、第 19 回国際エイズ会議に参加する研究者、NGO スタッフ、医療従事者等の会議登録料、旅費等を助成した。

会議開催期日：2012年7月22日（日）～27日（金）

開催場所：ワシントン D.C.（米国）

ウォルター・E・ワシントン・コンベンションセンター

会議テーマ：Turning The Tide Together 「ともに状況を変えよう」

派遣者：10人

6 エイズ国際協力計画推進検討事業（公4・調査研究事業）

東南アジア地域等におけるわが国の HIV 感染症・エイズ対策分野での国際協力計画作成のための提言を行うことを目的に、近年、HIV 感染率の上昇がみられるベトナムを訪問し、HIV 感染症・エイズまん延状況、エイズ予防啓発活動等の現地視察及び現地担当者との意見交換等を行った。

訪問地：ベトナム社会主義共和国 ハノイ市、ホーチミン市

日 程：平成 24 年 10 月 23 日（火）～11 月 1 日（木）

調査者：斉藤恵子（ACC 特任研究員）、山崎厚司、柏崎正雄

7 エイズ予防情報センター事業（公4・調査研究事業）

パソコンサイトにより API-Net を運営し、HIV 感染者・エイズ患者やその家族、一般国民、医療関係者等に対し、エイズに関する啓発情報、HIV 検査情報、NGO 活動情報等を提供した。特に、6 月の HIV 検査普及週間及び 12 月 1 日の世界エイズデーに際しては、各自治体で実施されるイベントや臨時 HIV 検査などについて情報収集し、特設ページにより公開した。年間のアクセス件数は 173,574 件であった。

8 青少年エイズ対策事業

（1）学校と地方保健行政の連携における青少年エイズ予防対策事業の実施

（公3・人材育成事業）

青少年を対象とする、科学的根拠に基づいたエイズ予防事業の実施を目的に、全国の地方自治体保健所等のエイズ対策担当者を対象とした「地域エイズ予防コアリーダー」育成のための研修会を実施した。また、同コアリーダーが地域において予防啓発活動を実施するための支援として、パンフレットの作成、提供を行った。

実施日：平成 24 年 7 月 18 日（水）～19 日（木）

場 所：京都ガーデンパレス

受講者：79 人（22 府県、64 保健所）

（2）「世界エイズデー」ポスターコンクール（公1・普及啓発事業）

全国の小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及び一般を対象に、HIV 感染症・エイズ予防及び差別・偏見の解消を呼びかけるポスターコンクールを実施した。

受賞作品は API-Net で公表するとともに、厚生労働省主催の世界エイズデーイベント会場においてパネル展示した。なお、世界エイズデー啓発ポスター用として選定した

作品は、厚生労働省により印刷され、全国に配布された。

募集期間：平成 24 年 7 月 5 日（木）～9 月 6 日（木）

応募総数：227 点

第 1 次審査会

日 時：平成 24 年 9 月 20 日（木）13 時 30 分～16 時 30 分

場 所：結核予防会会議室

結 果：第 1 次審査通過作品は 227 点中 72 点

本審査会

日 時：平成 24 年 10 月 3 日（水）14 時 00 分～16 時 00 分

場 所：結核予防会会議室

結 果：小・中・高・一般の各部門につき最優秀賞 1 点、優秀賞 2 点、佳作 3 点
を選考。また、各部門の最優秀賞作品の中から 1 点を「世界エイズデー」
啓発用ポスターとして選定

9 エイズ治療啓発普及事業（公 1・普及啓発事業）

（1）世界エイズデー・キャンペーンテーマ検討会議の実施

世界エイズデー・キャンペーンテーマの決定プロセスにできるだけ多くの人に関与してもらおうよう、API-Net による意見募集、フォーラムを開催、その後の関係者によるテーマ検討会議での議論、ワーディングを経てキャンペーンテーマ案を策定し、厚生労働省に提出した。

- ・第 1 回フォーラム（参加者 23 人）

日 時：平成 24 年 5 月 9 日（水）18 時 30 分～20 時 00 分

場 所：ねぎし内科診療所（東京）

- ・第 2 回フォーラム（参加者 26 人）

日 時：平成 24 年 5 月 18 日（金）18 時 30 分～20 時 00 分

場 所：大阪検査相談・啓発・支援センター「chotCASTなんば」オープンス
ペース（大阪）

- ・第 1 回テーマ検討会議（参加者 11 人）

日 時：平成 24 年 6 月 6 日（水）15 時 20 分～17 時 30 分

場 所：コミュニティセンターakta（東京）

- ・第 2 回テーマ検討会議（参加者 11 人）

日 時：平成 24 年 6 月 13 日（水）15 時 10 分～16 時 20 分

場 所：エイズ予防財団会議室（東京）

（2）「HIV 感染症治療の手引き」講演要旨集の発行

国内の HIV 感染症治療に携わる第一人者で組織される HIV 感染症治療研究会から発行

された「HIV感染症『治療の手引き』第16版」について、改定の内容及び背景など、第26回日本エイズ学会学術集会・総会シンポジウムでの発表を冊子としてとりまとめ発行した。

発行部数：500部

(3) 「HIV 検査普及週間」(6月1日～7日)の啓発普及事業

HIV 検査普及週間の告知と保健所等での HIV 無料・匿名検査実施の告知を目的とし、自治体・NGO 等の協力を得て街頭キャンペーンを実施した。

日 時：平成24年6月2日(土)13時45分～16時30分

場 所：ダイバーシティ東京プラザ(東京都台東区)

配布物：予防啓発グッズ・パンフレット 2,000セット

備 考：厚生労働省主催イベント「レッドリボン大作戦～あなたは HIV (エイズ) 検査に行きますか?～」に合わせて実施

(4) 「世界エイズデー」(12月1日)の啓発普及事業

ア 東京での街頭キャンペーンの実施

世界エイズデーの告知と保健所等での HIV 無料・匿名検査実施の告知を目的とし、学生ボランティア等の協力を得て街頭キャンペーンを実施した。

日 時：平成24年11月25日(日)13時00分～15時00分

場 所：渋谷駅ハチ公前周辺(東京都渋谷区)

配布物：予防啓発グッズ・パンフレット 3,300セット

備 考：厚生労働省主催の世界エイズデーイベント「RED RIBBON LIVE 2012」に合わせて実施

イ 「RED RIBBON LIVE 2012」ブース設置

会場内にブースを設置して来場者への啓発を図るとともに、世界エイズデーポスターコンクールの入賞作品を展示した。

日 時：平成24年11月25日(日)17時30分～21時00分

場 所：SHIBUYA-AX(東京都渋谷区)

配布物：予防啓発グッズ・パンフレット 700セット

(5) 小冊子・リーフレット・ポスターの作成・提供

エイズ予防啓発のパンフレット・ポスターを作成し、自治体等からの要請に応じて提供した。

ア 啓発パンフレット

- ・ HIV/エイズの基礎知識 60,000部
- ・ 受けましょう! HIV 検査 30,000部

・STI とかエイズのこと知ってる？ 50,000 部

イ 啓発ポスター

デザイン：人物のシルエット（多様性）、中央にキャンペーンテーマ、右下に検査情報ほか、帯の部分に HIV 検査普及週間、世界エイズデー

部 数：50,000 部

(6) 国連合同エイズ計画 (UNAIDS) 発行の冊子の翻訳と配布

UNAIDS 発行の冊子を、その許諾の下で邦語に翻訳・発行し、エイズ治療拠点病院、都道府県エイズ対策担当課、NGO 等に配布するとともに、API-Net で公開した。

冊子名：UNAIDS レポート「世界のエイズ流行 2012 年版」

部 数：1,400 部

(7) 「AIDS 文化フォーラム in 京都」ブース出展

「AIDS 文化フォーラム in 京都」にブースを出展し、ポスターコンクール入選作品紹介、キャンペーンテーマの周知、MSM コミュニティセンターの紹介、ポスター展示、予防啓発グッズ・パンフレットの提供などを行った。

日 時：平成 24 年 10 月 6 日（土）、7 日（日）

12 時 00 分～18 時 30 分、10 時 00 分～17 時 45 分

場 所：同志社大学新町キャンパス尋真館（京都市上京区）

10 ボランティア指導者育成事業（公 3・人材育成事業）

エイズ NGO 活動におけるリーダー養成のため、NGO 指導者研修会を開催し、HIV の疫学と治療、福祉制度に関する最新知見の取得、各 NGO 活動の経験共有や、プレゼンテーション能力の向上を図る講座を提供した。

実施日：平成 25 年 3 月 9 日（土）～10 日（日）

場 所：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター（東京都新宿区）

受講者：18 人

11 相談員養成研修事業（公 3・人材育成事業）

HIV 感染症・エイズに関する相談体制の質の向上、量的充実を図るため、次のとおり検査相談研修会を実施した。

目 的：最近の HIV 検査の動向や対応ポイント等について学ぶとともに、実際の検査時対応の基本演習を行う。

対 象：HIV 検査相談業務に携わる保健所、保健センター、クリニックを含む医療機関その他の機関の担当者

実施日：東京 平成 24 年 8 月 23 日（木）～24 日（金）

大阪 平成 24 年 10 月 18 日（木）～19 日（金）
場 所：東京 家の光会館・飯田橋レインボービル（東京都新宿区）
大阪 天満研修センター（大阪市北区）
受講者：東京 79 人、大阪 76 人

12 中核拠点病院連絡調整員養成事業（公 3・人材育成事業）

エイズ中核拠点病院の看護師等を養成し、HIV 診療に必要なチーム医療の調整及び地方ブロック拠点病院やエイズ治療拠点病院との調整に必要な能力を習得させることにより、地方ブロック拠点病院に患者等が集中する事態の解消並びに適切な医療の提供を図った。

（1）研修事業

エイズ中核拠点病院において HIV 医療に係る診療科間連携調整等のチーム医療に従事する看護師等を対象とし、6 ヶ月間の研修を実施する事業である。

研修期間中初期の 1 ヶ月間は ACC の実施するコーディネーターナース研修への参加とし、その後の 5 ヶ月間は地方ブロック拠点における実地研修として研修参加者の募集を行ったが、応募はなかった。

（2）全国中核拠点病院連絡調整員会議

前記のチーム医療に従事する看護師等の連絡調整員（同様の役割を担う者を含む）等を対象とする会議を開催した。

ACC の医師による HIV 診療に係る最新情報の講義のほか、地方ブロック拠点病院看護実務者との合同により、各病院・地域の現状報告、情報提供などを行った。

実施日：平成 25 年 3 月 9 日（土）

場 所：国立国際医療研究センター研究所会議室

参加者：28 機関 34 人

13 HIV 感染者・エイズ患者の在宅医療・介護の環境整備事業

治療の進歩により長期存命が可能となった HIV 感染者・エイズ患者に対する在宅医療・介護の環境を整備するため、訪問看護を行う看護師等への実地研修、在宅医療・介護を行う医療機関等への支援チーム派遣、地域で患者等の診療に携わる医師、歯科医師等への HIV 医療講習会を実施した。

（1）実地研修事業（公 3・人材育成事業）

訪問看護・訪問介護サービスを提供している事業所の看護師や介護職員をエイズ中核拠点病院等に 2 週間程度派遣し、HIV 感染症・エイズ医療に係る実地研修を実施した。研修を実施した病院は次の 11 病院である。

北海道大学病院、国立病院機構仙台医療センター、新潟大学医歯学総合病院、栃木

県済生会宇都宮病院、筑波大学附属病院、石川県中央病院、国立病院機構名古屋医療センター、奈良県立医科大学附属病院、川崎医科大学附属病院、県立宮崎病院、琉球大学医学部附属病院

なお、準備を整え受講生の募集を行ったが、実施に至らなかった病院が4カ所あった。

(2) 支援チーム派遣事業（公5・相談事業）

エイズ治療の専門的知識を有する支援チームをエイズ中核拠点病院に設置し、在宅医療・介護を行う医療機関等の要請に基づいて同支援チームを派遣する事業を実施した。

支援チームを設置した病院は、次の14病院であり、そのうち、支援チームを派遣したのは、群馬大学医学部附属病院の1カ所である。

岩手医科大学附属病院、獨協医科大学病院、新潟大学医歯学総合病院、栃木県済生会宇都宮病院、筑波大学附属病院、石川県立中央病院、群馬大学医学部附属病院、横浜市立大学附属病院、浜松医療センター、高知大学医学部附属病院、兵庫医科大学病院、琉球大学医学部附属病院、岐阜大学医学部附属病院、島根大学医学部附属病院

(3) HIV医療講習会の開催（公3・人材育成事業）

地域で患者等の診療に携わる医師、歯科医師、看護師等を対象として、HIV感染症・エイズに関する知識や感染予防等に関する講習会を都道府県医師会、同歯科医師会の協力を得て実施した。

講習会を実施した医師会と歯科医師会は、次の道府県のとおりである。

○ 医師会（5機関）

奈良県／埼玉県／大阪府／兵庫県／岐阜県

○ 歯科医師会（10機関）

沖縄県／滋賀県／山梨県／北海道／愛媛県／岩手県／埼玉県／鹿児島県／宮城県／京都府

（注：講習内容の質の確保と統一化を図るため、厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業研究班の協力を求めた。）

III 同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業

（厚生労働省委託事業、公1・普及啓発事業）

わが国における近年のHIV感染者・エイズ患者の発生動向を踏まえ、「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針」に基づき、個別施策層である同性愛者等に対してNGO等による当事者性のある活動を支援することにより、エイズに関する正しい知

識の普及等を推進するため、以下の事業を実施した。

1 同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業推進協議会の設置

同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業を効果的・効率的に推進するためには、1つのコミュニティセンターが単独で事業を行うのではなく、他のセンター及び厚生労働省エイズ対策研究事業「MSMのHIV感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究班」（研究代表者・市川誠一）との協調・協働が重要である。そのため、研究者等による推進協議会を設置し、事業活動方針の協議や事業の評価のための協議会を3回開催した。

委員：生島嗣（ぷれいす東京）／◎市川誠一（名古屋市立大学）／伊藤俊広（仙台医療センター）／内海眞（東名古屋病院）／鬼塚哲郎（京都産業大学・MASH大阪）／健山正男（琉球大学）／山本政弘（九州医療センター）

① 開催日：平成24年7月5日（木）

方 法：書面報告

議 案：平成23年度事業報告・会計報告

② 開催日：平成24年9月12日（水）

方 法：書面表決

議 案：コミュニティセンターakta非常勤職員に対する深夜バス料金支給の件

③ 開催日：平成25年3月30日（土）

場 所：結核予防会会議室

議 案：厚生労働省の企画競争、平成25年度非常勤職員雇用、同事業計画・予算、コミュニティセンターの今後

2 コミュニティセンターの設置・運営等

同性愛者等向けコミュニティセンター（以下「センター」という。）を、仙台市青葉区国分町、東京都新宿区新宿2丁目、名古屋市中区栄、大阪市北区堂山町、福岡市博多区住吉、沖縄県那覇市壺屋の6地域に設置し、以下の事業を行った。

(1) 地域ボランティア団体（CBO）による運営

センターの運営は、上記研究班においてコミュニティベースの啓発活動の実績を示してきた、地域の男性同性愛者等で構成する CBO の協力を得、同性愛者等に訴求性のある効果的な啓発活動を推進した。

① コミュニティセンター機能

ア ゲイ・コミュニティにアクセスする人々や、その他の MSM が自由に立ち寄ることができ、セクシュアルヘルスに必要な情報やコミュニティの情報を持ち帰ることができる拠点提供（啓発資材の収集・提供、コミュニティ情報の収集・提供、

情報収集のためのインターネット利用の提供など)

イ HIV 感染症・エイズ予防啓発を行うための資料 (フリーペーパーやコンドーム) の作成・配布

ウ HIV 感染症・エイズ、セクシュアルヘルスの情報発信を目的とした交流会・勉強会・研修会等の実施

エ 地域の HIV 感染症・エイズの状況をゲイ・コミュニティ等に還元する成果報告の会場提供

オ 地域のゲイ・コミュニティを活性化するための会場提供

カ セクシュアリティや性、STI/HIV などに取り組む他の関連機関との協働、連携の拠点

② 同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業連絡会議

○開催日：平成24年8月29日 (水)

場 所：結核予防会会議室

議 題：各センターの進捗状況、GCQ アンケート結果、相談事業のあり方、相談記録票のフォーマットほか

○開催日：平成24年11月26日 (月)

場 所：慶應義塾大学日吉キャンパス (横浜市港北区)

議 題：相談記録票、厚生労働省への報告ほか

○開催日：平成25年2月25日 (月) ~26日 (火)

場 所：コミュニティセンターakta (東京都新宿区)

議 題：企画書、事業計画・予算、相談記録票、次年度以降の事業ほか

(2) HIV 感染症・エイズ予防啓発のための資料作成と配布

同性愛者等のセクシュアル・マイノリティや HIV 感染者に対する偏見・差別については、地域によって異なった背景があるため、対象地域の特性に配慮しつつ、訴求性のある啓発資料等を開発し、普及を図った。また、同性愛者等の社会においても既に HIV 陽性者が多く存在することから、その点に配慮した。

(3) 同性愛者等における HIV 感染症・エイズの予防や支援のための研修会の実施

地域の同性愛者等に対する偏見や差別を解消するため、また、HIV に関する相談や HIV 検査等を同性愛者等が安心して受けられる環境を構築するため、保健医療従事者、教育関係者、自治体職員等を対象とする研修会を実施した。

(4) 同性愛者等向け HIV 検査相談の推進

公的検査機関や STD 等のクリニックとの連携で同性愛者等が利用しやすい HIV 検査環境を整えるとともに、これらを活用した HIV 検査相談を促進するキャンペーン等を実

施した。

(5) その他の事業

本事業は、同性愛者等を対象としている商業施設が集積する地域において啓発活動を行う拠点を設置するものであり、各種施設や企画イベントと連携することで、より一層の効果が期待されるため、6地域で活用できるコミュニティセンター紹介フライヤーやポスターを作成、配布した。また、商業施設を中心としたコミュニティに出入りすることのない同性愛者等に対しても、啓発イベント、インターネット、各種メディア等を通じて啓発普及を図った。

IV エイズ対策研究推進事業 (厚生労働科学研究費補助金)

平成25年度の研究推進事業に対する応募申請の審査、採択を行うため、エイズ対策研究推進事業運営委員会が開催され、(1)～(4)の各事業の結果を得た。また、このほか、(5)のとおり、研究成果等普及啓発事業を行った。

日 時：平成25年3月4日(月) 10時00分～11時48分

会 場：結核予防会会議室

委 員：石川信克(結核研究所)／武田康久(国立国際医療研究センター)／富澤一郎(国立感染症研究所)／永井美之(理化学研究所)／中村安秀(大阪大学大学院)／◎吉倉廣(国立感染症研究所)

(1) 外国人研究者招へい事業 (公2・助成事業)

・招へい人数 3名 (国別) 米国 2名、英国 1名

(2) 外国への日本人研究者派遣事業 (公2・助成事業)

・派遣人数 1名 (国別) 英国 1名

(3) 外国の研究機関等への委託事業 (公2・助成事業)

・委託件数 1件 (国別) ベトナム 1件

(4) 若手研究者育成活用事業 (公2・助成事業)

・人数 49名

国立感染症研究所等研究機関(5機関) 6名

地方ブロック拠点病院等(10機関) 43名

(5) 研究成果等普及啓発事業（公1・普及啓発事業）

- ・研究成果発表会 開催回数 1回

件名：「“AIDS” GOES ON... 続いているから続けていく～コミュニティ・研究者・行政、連携のこれまでとこれから～」

日時：平成24年11月26日（月）13時15分～15時15分

会場：慶應義塾大学日吉キャンパス（横浜市港北区）

内容：講演「連携はなぜ必要か ～AIDS文化フォーラムの20年」

シンポジウム「エイズ医療体制とコミュニティ」

「エイズ NGO の現状と課題」

「セクシャルマイノリティ支援とHIV/エイズ」

「連携事例としてのテーマ選定プロセス」

参加者数：150名

V その他事業

(1) 名義の付与

出版社等の発行する小冊子、リーフレット等の監修を行い、監修名義を付与した。

自治体・企業・団体等が主催するHIV感染症／エイズに関する講演会、チャリティイベント等に後援名義を付与した。

(2) 米国大使館主催によるLGBT月間レセプションへの参加

米国大使館主催によるレセプションに出席し、出席者との意見交換を行った。

実施日：平成24年6月4日（月）

場所：米国大使館（東京都港区）

管 理 部 門

1 理事会

(1) 第7回理事会

日 時：平成24年6月1日（金）16時00分～17時35分

会 場：エイズ予防財団会議室

議 案：平成23年度事業報告の承認の件／平成23年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算）及び附属明細書並びに財産目録の承認の件／定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等の件

報告事項：第6回理事会（平成24年3月29日）以降の職務執行の状況

(2) 第8回理事会（書面表決）

書面表決の日：平成24年6月18日（月）

方 法：一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第96条の規定に基づく、書面表決

議 案：平成24年度エイズ予防財団助成事業助成対象者決定の件／公益財団法人エイズ予防財団倫理審査規程制定の件

(3) 第9回理事会

日 時：平成24年11月12日（月）16時00分～17時30分

会 場：エイズ予防財団会議室

議 案：平成24年度収支予算補正の承認の件／厚生労働省委託事業について

報告事項：平成24年度上期財務状況／第7回理事会（平成24年6月1日）以降の職務執行の状況

(4) 第10回理事会（書面表決）

書面表決の日：平成25年2月28日（木）

方 法：一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第96条の規定に基づく、書面表決

議 案：平成25年度エイズ予防財団助成事業助成予定総額設定の件／平成25年度事業計画・予算案編成方針の件／一時金の支給の件

(5) 第11回理事会

日 時：平成25年3月25日（月）17時00分～18時30分

会 場：エイズ予防財団会議室

議 案：平成25年度事業計画・収支予算の承認の件／平成25年度エイズ予防財団助成事業及びポジティブ・アクション助成事業助成対象者の決定の件／事務局の組織改編の件

報告事項：平成24年度決算見込み／第9回理事会（平成24年11月12日）以降の職務執行の状況

2 評議員会

(1) 第2回評議員会

日 時：平成24年6月25日（月）16時00分～17時10分

会 場：結核予防会会議室

議 案：議長の互選の件／議事録署名人の選出の件／平成23年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録の承認の件

報告事項：平成23年度事業報告の内容報告／理事会の開催状況等について／その他

3 その他

(1) 保健文化賞受賞

国立国際医療研究センターの推薦により、第一生命保険株式会社が主催し、厚生労働省等が後援する第64回「保健文化賞」を受賞し、賞金200万円と記念品の贈呈を受けた。

また、翌22日（木）に宮中参観があり、理事長が他の受賞者・団体と共に天皇陛下の拝謁を得た。

贈呈式・祝賀会：平成24年11月21日（水）、ホテルオークラ東京